

マシンとデータ共有で介護予防

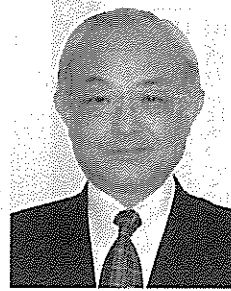


手の動きから脳の働き把握

2010年から毎年出展しているのがリハビリ型デバイスサービスの開業支援を行うサロンオールデイズ(東京都中央区)。トレーニングマシンを使用したリハビリトレーニング「リハトレナー」や認知機能低下ケアシステム「まゆっこ」を活用したリハデイの運営を提案する。

サロンオールデイズ

菅澤清孝会長



同社の開業支援実績は豊富で、FC加盟金やロイヤリティ、コンサル料など開業支援に関する費用は不要。会社設立から、物件選び、集客、資金調達まで、さまざまなサポートを行う。

リハトレナーは、旧東京都老人総合研究所(現東京都健康長寿医療センター/同板橋区)が提唱する「包括的高齢者トレーニング(CGT)」に基づいたプロ

グラムを内蔵。エビデンスに基づいたリハビリカリキュラムを構築できる。また、個別運動メニューの設定から運動記録の保存、履歴まで利用者ごとにデータベース(データ蓄積)を作成でき、運動開始前・開始後の効果判定用にレーダーチャートを作成・印刷できる。

「まゆっこ」は、アルツハイマー型認知症による認知機能の低下を物理的データで判断するアイテムとして開発されたもの。東京都健康長寿医療センターの「地域型認知症予防プログラム」の運動部分をデータ化するシステムで、コントローラーを持ち、目に入るキャラクター映像と同じ動作をすることで、手に動作

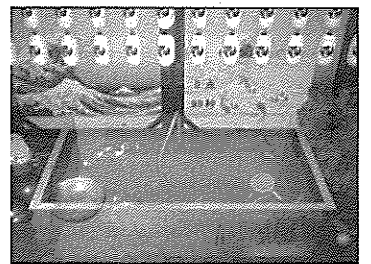
▲「まゆっこ」はゲーム感覚で認知機能を測定できる。



を指示する脳の判断を、手の動きから測定し、脳の動きを間接的に知ることができる。

運動結果は、レーダーチャートとしてその場ですぐに見ることができ、自動的にデータベースを作成するため、過去データとの比較・検証も容易だ。データによる可視化で、確認しやすい認知症の兆しの発見やアドバイスの材料として活用できるほか、似たような数値の人の傾向と対策の分析や、専門職の経験値に頼ることなく、客観的な利用者の状況の把握などに活用することができる。

簡単な下肢運動で操作可能なため、利用者は椅子に座ったままゲーム感覚で楽



▲レクリエーションアプリも用意

しみながらできるのも特徴。指の力の加減が図れるようにコントローラーの握り位置に突起をつけて場所を特定できるよう工夫しているほか、数字選びや漢字、料理に関する問題などの脳トレや金魚すくいを楽しめるレクリエーションのアプリなども用意されている。

「リハトレナー」による下肢運動データと、まゆっこから得られる上肢の脳活性データを得ることは重要で、各データを分析することで運動機能の維持・改善や、認知機能低下をケアするのに効果的なトレーニングを行うことができると考えています(菅澤清孝会長)